

ふるさと講座・自然系第5回目のお知らせ！

「秋の渡り鳥観察会～野付半島の先端を目指して～」

この時期数多く見られる「ガン・カモ類」を中心とした観察会を行います。観察場所は、野付半島の先端部で、最後の番屋から徒歩で先端を目指したいと思います。

半島先端から見える根室半島から知床半島の風景を見ることが出来ます。希少種のユキホオジロも観察することが出来ます。ぜひ、ご参加ください。



- 日 時 平成24年12月2日（日）午前10時～12時30分
- 場 所 野付半島（集合は野付半島ネイチャーセンター2階）
- 講 師 羅臼町立春松中学校 教頭 藤井 薫 氏
- 定 員 15名（電話・FAX・メールにて氏名・電話番号を11月30日（金）までにご連絡ください。）
- その他 往復4キロ程度歩きますので、防寒着・長靴を必ず着用ください。図鑑・双眼鏡をお持ちの方は持参ください。当館でも若干貸出しします。

郷土資料館の出来事(10月)

10/3 北方四島学術交流団の来館

北海道開拓記念館が行っている北方四島学術交流事業の一環として、国後島古釜布郷土資料館長等4名の方がご来館され、郷土資料館や加賀家文書館を見学されました。展示の内容などについて良く整理されているとお言葉をいただきました。



10/5 職場訪問インタビュー・別海中央中学校2年生の来館

3年生時に行われる職場体験学習に生かすことを目的に行われるもので、この度当館に3名の生徒がご来館されました。インタビューの内容は、1日の仕事の流れ、展示物の入手方法、仕事をして心がけていること、仕事の魅力、大変なこと、郷土資料館の将来像などでした。郷土資料館に少しでも興味を持っていただけるよう展示室に案内しながら、仕事の話を聞いていただきました。後日、丁寧な礼状や学校祭で展示するポスターのコピーが送られ、今後もより一層努力し、郷土資料館としての使命を果たさなければならないと感じました。

10/21 秘境オンネニクルの森を歩く！

～ふるさと講座歴史系第3回目～

トドワラについて野付半島第2の名所になりつつある「ナラワラ」の奥に広がるこの森は、アイヌ語で「年老いた林、大きい林」という意味があり、国有林のため普段は入ることが出来ません。

ナラワラの枯木をまじかに歩くと、道路から見る風景とはまるっきり違う風景が広がります。また、アイヌ文化期のイドチ岬チャシ跡、擦文文化期の竪穴住居跡の野付1,2遺跡を見学しました。風の強い1日でしたが、29名の参加者は森の中の太古から変わらぬ風景に魅了されました。



近世の別海を探る 野付～その1～

「近世の別海を探る」野付にシリーズに入りたいと思います。今回は、野付の概史を紹介します。

日本最大の砂嘴「野付半島」、ドドワラ・ナラワラの特異な景観や水と緑と野生鳥獣に象徴される風景は多くの観光客を魅了しています。

半島中央のオンネニクルの森には擦文時代と思われる竪穴住居跡が数多くあり、古くから先人たちの営みがあったことがわかります。

しかし、文献史料に登場するのは、ずっと後の近世後半になってからです。

慶長9年(1604)に松前藩が成立し、アイヌとの交易が開始され、東部奥蝦夷地にもその勢力は拡大されていきますが、独立性の強いアイヌたちがいたこの地方の様子がわかりはじめるのは、まだ、先のことでした。

『津軽一統志』寛文10年(1670)の記録に、その22、3年前の話として「みむろよりのしけ着…是よりらっこ島くなしりへ渡り申候」とはじめて、のしけ(のつけ)の地名が現れ、野付は国後島渡海のための要津であったと思われます。

その後、場所請負制により和人がこの地方に進出し、交易や漁場などを開いたことや、寛政11年(1799)には幕府により国後島へ渡るための要所として、「野付通行屋」が設けられたことにより、次第にこの地方の様子が明らかになってきます。



別海町郷土資料館だより No.160

発行日 平成24年12月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

紅葉も終盤戦です。いよいよ冬です。今年もあと2ヶ月早いですね！ 当館も色々と新しい事業を展開する時期にきています。様々な方法でたくさんの方に利用・活用いただくような方策を考えています。お楽しみに。(K.I)